

# 恐れずに前へ

～昨日までの自分(達)を越えて～

発行者 姫野 倫理

## 面接に向けて準備を始めています

近年、多くの学校が、検査項目の一つとして「面接」を採用しています。個人・集団・グループ討論など、その方法は様々ですが、いずれにしても、「筆記試験」では把握しづらい、生徒一人一人の「意欲」を評価することを目的として実施されています。

礼の仕方やドアの開け方、椅子の座り方など、練習当初はぎこちなさが目立つのですが、入試本番が近づくとつれ、どんどん上達する姿に、驚かされることが多いです。

そんな「面接」ですが、話す内容は「アドリブ」ではなく、予想される質問に対して、あらかじめ「返答」を準備しておくのが一般的です。現在、3年生では「進路指導ハンドブック」を活用し、予想される質問に対する「返答」を考えている段階なのですが、これがなかなか難しい！完成に向けて、少しずつ進んでいるのが現状です。

「筆記試験」に向けた学習と同時並行で進めなくてはならないため、負担も少なくないですが、「面接」に向けた準備や指導は、すべて学校で実施いたします。ご家庭でも話題にさせていただけると幸いです。

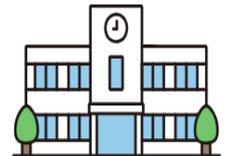
※以下の資料は、お子様に配布しております「面接必勝講座」の一部です。

### そもそもなぜ「面接」なのか...

まず、面接をどう入試に組み入れているかは、それぞれで異なります。**1対1の個人面接なのか、複数の受検者を一つの会場で実施する集団面接なのか、自分が受ける高校がどういうスタイルで面接を実施するかを、受検前に確認しておく必要があります。**また、**面接試験の配点も、調べておくようにしましょう。**推薦入試や特色選抜などは、総定員に占める合格者の割合が少ない場合が多いため、基本的に倍率は高くなっています。こういった選抜の場合は、調査書点(内申点やその他の記載事項)の割合が大きいです。倍率が高いということは、面接やその他の検査(作文など)の点数で差がつく可能性もあります。

人生初めての面接試験になるという方がほとんどだと思いますので、みなさんも不安が多いかと存じますが、ぜひ知っておいていただきたいことが一つあります。**高校側は、「生徒の悪いところを見抜こう」「どんどん減点しよう」というふうに、目を光らせているのではないということです。**高校側は、**子どもの行動をなるべく善意に解釈しようと努めています。**

いずれにしても、高校入試でなぜ面接を行うのか。**その目的は明確です。学力検査で測ることのできない、生徒の意欲を知るためです。**意欲は、ペーパーテストで測ることが難しいため、面接が実施されるのです。高校側が面接で知りたい生徒の意欲とは、**教科の学習活動についての意欲と、その他の活動(学級活動、生徒会活動、部活動など)についての意欲**です。教科の学習活動についての意欲とは、自分はどういう勉強が好きか、高校でどんな勉強をしたいか、そこから将来どんな目標を抱いているかということ。特色がある学科の入試では、当然その分野について聞かれます。最近では、コミュニケーション能力を測るために、集団討論やグループ面接などを取り入れる場合があります。コミュニケーション能力というと難しく聞こえますが、**相手の言っていることを理解して、自分の考えを伝える力です。**あまりうまくやろうと気張らずに、でも一生懸命取り組むことが大切です。



### 面接の四大要素

- 1 **自分の考え**をしっかり持っていること。
- 2 相手に自分の考えを正しく伝える **自己表現力**が身につけていること。
- 3 相手の印象を大きく左右する **「身だしなみ」**が整っていること。
- 4 言葉遣いや入室の仕方など、中学生としての **「マナー」**が身につけていること。